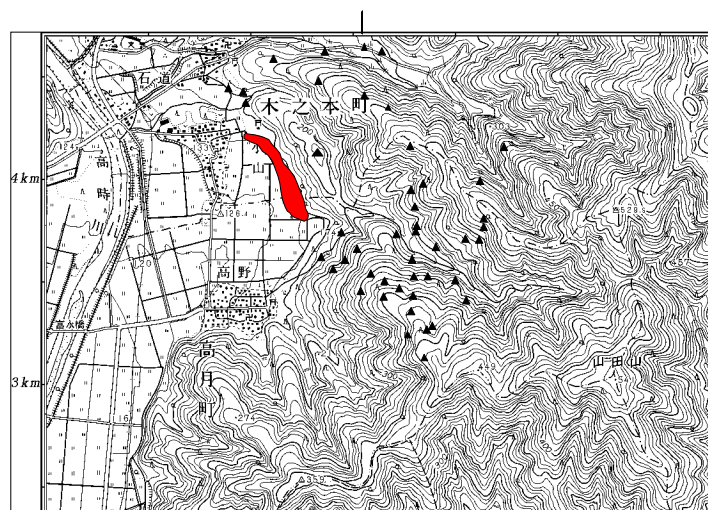


放牧と忌避作物で環境を変える

1. イノシシの行動抑制に放牧の効果

イノシシが里に出やすい条件の一つに、耕作放棄地の存在がある。これを解消するために家畜の放牧を行うと、雑草の草丈が約40cmになるまで家畜に食べられた頃から、放牧地付近にイノシシの痕跡が認められなくなり、農地への侵入もなくなった。テレメトリ調査でも、放牧地の近くで行動する時期もあるが、農地まで行動域にしていたイノシシが、放牧後は森林内のみ動いていることが確認できた。入牧する家畜は、和牛、羊、山羊などであり、経済的なメリットを考慮すると、繁殖和牛が適している。和牛放牧での注意点は、放牧地の草が急激に伸びる時期まで（4～5月）に入牧すること、放牧後は、エサとなる野草の状況を見て地域に適した牧草の導入（シバ系）や面積拡大による転牧の必要性があげられる。



放牧地を避ける行動

赤：放牧地

▲：テレメトリ調査で確認された地点

2. イノシシが嫌がる作物？

イノシシが興味を示さない作物があるか調査、実験したところ、園芸作物ではシソ、ゴボウ、ミント、白ネギの4品目で、雑穀類では、水稻品種「シシクワズ」、二条大麦といったボウの長い品目であった。これらのうち、シソを法面に植え付けた実験では、シソ付近への出没が激減し、シソを越えて農地へ移動することはなかった。一方、水稻品種「シシクワズ」は、1筆すべてに作付けると、被害をほとんど受けなかった。したがって、これらの作物を利用して、里のエサ場価値を下げられる可能性がある。



山際での水稻品種「シシクワズ」の作付

被害対策のポイント

1. 家畜の放牧は、イノシシが出やすい耕作放棄地などの解消に有効であり、イノシシの行動域を変え、里への侵入を防ぐ効果が絶大である。
2. イノシシが興味を示さないシソ、ゴボウなどの作物を作付けることにより、里におけるイノシシのエサ場を減らす効果が期待できる。

<課題名> 放牧や忌避作物などの農地利用による獣害抑制技術の開発

<目的> 放牧や忌避作物の土地利用によるイノシシの行動変化をテレメトリ調査などにより明らかにし、その有効性を科学的に検証する。

<成果の問い合わせ先>

山中 成元（やまなか せいげん）

滋賀県農業技術振興センター 栽培研究部 湖北分場

滋賀県伊香郡木之本町千田 840

電話 : 0749-82-2079

メール : gc59@pref.shiga.lg.jp